

広島県感染症発生動向月報

[広島県感染症予防研究調査会 感染症解析評価部会]
(平成16年4月解析分)

1 疾患別定点情報

定点把握(週報)五類感染症

平成16年3月分(平成16年3月1日～3月28日:4週間分)

疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
1	インフルエンザ	1,459	3.04	5.61	↓	12	ヘルパンギーナ	36	0.12	0.07	↗
2	RSウイルス感染症	38	0.13	-	↓	13	麻疹	0	-	0.11	
3	咽頭結膜熱	131	0.44	0.09	↗	14	流行性耳下腺炎	129	0.43	0.94	↗
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	377	1.26	0.74	↗	15	急性出血性結膜炎	4	0.05	0.06	
5	感染性胃腸炎	3,774	12.58	10.47	↗	16	流行性角結膜炎	98	1.23	1.31	↗
6	水痘	474	1.58	1.75	↘	17	細菌性髄膜炎	1	0.01	0.00	
7	手足口病	9	0.03	0.11		18	無菌性髄膜炎	6	0.07	0.03	
8	伝染性紅斑	99	0.33	0.18	↗	19	マイコプラズマ肺炎	9	0.11	-	
9	突発性発しん	193	0.64	0.64	↗	20	クラミジア肺炎	0	-	-	
10	百日咳	2	0.01	0.02		21	成人麻疹	0	-	-	
11	風しん	1	0.00	0.02		「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当り)					

急増減	増減	微増減	横ばい
↑	↗	↗	↗
↓	↘	↘	
前月と比較しておおむね1:2以上の増減	前月と比較しておおむね1:1.5～2の増減	前月と比較しておおむね1:1.1～1.5の増減	殆ど増減なし(発生件数少数のものを含む)

定点について

定点情報は、定点把握対象の五類感染症(週報対象21疾患,月報対象7疾患)について、県内188の定点医療機関からの報告を集計して作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD 定点	基幹定点	合計
対象疾患 No.	1	1～14	15, 16	22～25	17～21, 26～28	
定点数	45	75	20	27	21	188

定点把握（月報）五類感染症

平成16年3月分（3月1日～3月31日）

疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
22	性器クラミジア感染症	66	2.44	2.00	↗	26	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	124	5.90	-	↗
23	性器ヘルペスウイルス感染症	8	0.30	0.53		27	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	63	3.00	-	↗
24	尖圭コンジローマ	12	0.44	0.60	↗	28	薬剤耐性緑膿菌感染症	8	0.38	-	
25	淋菌感染症	10	0.37	0.61	↘	「過去5年平均」：過去5年間の同時期平均（定点当り）					

インフルエンザ 急減（2月11,359件 3月1,459件）

RSウイルス感染症 急減（2月82件 3月38件）

2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

- 一類感染症 発生なし
- 二類感染症 1件発生（細菌性赤痢1件（広島市保健所管内 1件））
- 三類感染症 1件発生（腸管出血性大腸菌感染症（O157）1件（福山市保健所管内 1件））
- 四類感染症 1件発生（マラリア1件）
- 全数把握五類感染症 5件発生（ウイルス性肝炎1件，後天性免疫不全症候群1件，梅毒2件，アメーバ赤痢1件）

3 一般情報

咽頭結膜熱

本疾患は、通常夏期に大きな流行が見られる疾患であるが、最近の傾向として、下記の月別発生報告数のデータにも見られるように、増加傾向にある。

本年1月，2月，3月は，昨年と比較して倍近くの発生報告があり，また，平成14年と比較しても約4倍から6倍の報告数となっている。

昨年，7月から9月にかけて多発し，10月以降も平成14年の倍近くで推移している。

本疾患の病原体は，アデノウイルスで，症状は，発熱，頭痛，食欲不振，全身倦怠感，咽頭炎による咽頭痛，結膜炎に伴う結膜充血，眼痛，流涙などである。また，病原体診断や血清学的診断をあわせて，当該疾患と診断される。

潜伏期間は，5日から7日で，感染経路は，通常は患者からの飛沫感染が主であるが，経口あるいは経結膜感染もある。

類症鑑別診断としては，溶血性レンサ球菌咽頭炎，EBウイルス感染症，川崎病などがある。

【平成14年1月～平成16年3月までの小児科定点医療機関（県内75）からの報告件数】

年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
16	66	98	131	-	-	-	-	-	-	-	-	-	295
15	39	42	47	31	87	105	274	221	175	68	73	93	1255
14	15	18	24	22	68	78	90	124	73	54	33	52	661

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

本疾患は年間を通じて発生するが，最近の傾向として，定点医療機関からの報告件数が前年比，多めに推移している。

病原体は，A群溶血性レンサ球菌で，症状は，突然の発熱（高熱），咽頭痛，全身倦怠感がある。

潜伏期間は，1日から4日で，感染経路は，鼻汁・唾液中の溶血性レンサ球菌の飛散で，人から人へ感染する。また，経口感染もある。

本年は，例年に比べ1月から2月の定点医療機関からの報告件数が多い傾向にあり，また全国的にも例年に比べ多発しているため，注意が必要である。

【平成14年から16年の1～3月の発生報告数】

年	1月	2月	3月	計
16	374	379	377	1130
15	199	237	302	738
14	282	268	193	743

風しん

今年に入り一部の地域（九州及び関東地方）で患者が多く発生しております。現在中国地方では多発している状況にはありませんが，今後注意が必要です。

病原体は，風しんウイルスで，症状は，感染してから14日から21日の潜伏期間後，発熱，発疹，リンパ節腫脹が見られ，一般には，「三日ばしか」と呼ばれています。妊娠した女性が，風しんに罹患すると，出生児が先天性風しん症候群を発生することがあります。

先天性風しん症候群とは，妊娠2ヵ月以内の女性がかかると，出生児に白内障，先天性の心臓病，難聴の2つ以上をもって生まれてくることが多く，妊娠3から5ヶ月に感染した場合でも難聴が多く見られます。予防接種を受ける場合に注意することは，妊娠していないことが明らかであること，接種後は最低2ヶ月の避妊が必要なことです。